



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2016年5月8日(日)9:30~12:00(晴)

参加者 一般:2名(うち子ども1名)

指導員:7名

テーマ 「ヒサウチソウを見てみよう」

風薫る5月といいますが、新緑に変わったクスノキの花から漂う柑橘系の爽やかな香りを感じながらスタートしました。

堤防や川原にはいろいろな外来植物が繁茂していますので、それらの花を中心に見て回りました。

鮮やかな黄色が目立つのは特定外来生物に指定されているオオキンケイギクです。駆除もされているようですが、以前に対岸の笠田広場で栽培されていた影響もあり、まだまだよく見かけます。

さて、今日のテーマとなっているヒサウチソウですが、1982年に名古屋で初めて確認されたウツボグサ科の外来植物です。138タワーパークより少し上流の堤内地側の堤防法面でたくさん花をつけていました。昨年と比べると生えている範囲が広がった感じです。さらに驚いたことに、昨年は見られなかった近縁のセイヨウヒキヨモギの黄色い花が混在して見られたことです。いったいどのようにして種子が持ち込まれたのでしょうか。外来種の勢力拡大の速さに驚かされるばかりです。

大野極楽寺公園では外来のコメツブツメクサとコメツブウマゴヤシが隣り合って生え、小さな黄色の花をつけていましたので、両者の違いをじっくり観察することができました。また、近くの水路にはオオカワチシャの薄紫の花も見られました。

人の手が加わった堤防、道路脇、公園などには外来植物が侵入しやすいと言われますが、回ってみて外来種の多さにはびっくりしました。

(報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

花が咲いていた外来種: イヌコモチナデシコ、ニワゼキショウ、シロツメクサ、ナヨクサフジ、ヒメスイバ、オッタチカタバミ、ムラサキカタバミ、コマツヨイグサ、ユウゲショウ、アメリカフウロ、マツバウンラン、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヒメブタナ、ハルジオン、オニノゲシ、チチコグサモドキ
在来種: ヒナギキョウ、カナビキソウ、スイバ、ノミノツツリ、ナワシロイチゴ、ノイバラ、オヘビイチゴ、スミレ、カタバミ、ニガナ、ニホンタンポポ、ノアザミ、コウゾリナ、チチコグサ、ヤブタビラコ、オニタビラコ、イヌガラシ

鳥: ツバメ、ヒバリ、オオヨシキリ(声)、ウグイス、センダイムシクイ(声)、ヒヨドリ、ホオジロ、キジバト、ムクドリ、キジ(声)、モズ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

昆虫: ヤマトシジミ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ナミアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、テングチョウ、ツマグロヒョウモン、シオカラトンボ、セイヨウミツバチ、オオスズメバチ、テントウムシ、コアオハナムグリ、ゴボウソウムシ sp



(観察会のようす)



(ヒサウチソウ)



(セイヨウヒキヨモギ)